

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)	◎	一般小売店〔時計〕（経営者）	単価の動き	・来客数はそれほど多くなかったが、売上は大きく伸びた。時計の購入価格、修理代共に、客単価が上昇している。いずれも20年来の客が来店したことが要因で、以前に購入した時計が壊れて来店するなど、久しぶりの来客が重なっている。
	◎	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・繁忙期のため、来客数が増えている。
	◎	家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・新たな省エネ基準の施行を背景に、エアコンの販売が前年比で大きく伸びている。これからの夏本番を迎え、ボーナス商戦とあいまって景気回復への貢献が期待できる。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・気候が良くなって人出が増え、買回品も動き出している。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	来客数の動き	・インバウンドの来店が年間のピークを迎え、来客数の増加に伴い、売上もアップする。
	○	一般小売店〔化粧品〕（経営者）	単価の動き	・4月は序盤から好調に推移しており、最終的に前年を上回る結果となった。来客数は減少したが、客単価は前年比で105%となり、90%台半ばに落ち込んだ来客数の悪化を補う形となった。春の新色商材で海外のラグジュアリーブランドの売上が伸びたほか、ギフト需要の拡大でフレグランス関連が5%増加している。
	○	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・近隣での大規模病院の開業や、同業他店の閉店により、来客数が前年比で5.0%増と好調に推移している。また、地域で唯一の百貨店となったことで、ギフト商材の売行きが好調であり、当面はこの流れが続くと予想される。
	○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・前年と比べて、対ドルや対円で円安がかなり進んでいることもあり、インバウンド売上は前年比で20%以上の増加となっている。ただし、直近は中国の労働節前の航空運賃上昇により、売上は減少傾向にある。一方、国内売上も株価の上昇を背景に高額品が売れており、外商売上はもちろん、外商を除く売上も好調に推移している。
	○	百貨店（広報担当）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、春物ファッションを軸に好調となっており、新生活需要や各種ギフトも活況である。免税売上も、中国からのインバウンドは依然厳しい状況ではあるが、中国以外にも含めた富裕層が売上をけん引している。
	○	百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月も物産催事と期間限定ショップの展開による効果で、来客数、売上共に好調に推移している。また、インバウンド売上の復調に加え、春物の婦人服を中心に、堅調な動きがみられる。
	○	百貨店（商品担当）	販売量の動き	・中東を含む海外情勢の変化に伴い、資源価格や物価の上昇で買い控えが発生すると予想していたが、今月はインバウンド、国内客共に予想以上の売行きとなっている。
	○	百貨店（宣伝担当）	販売量の動き	・中国からのインバウンドが減り、1～2月の免税売上は大きく落ち込んだが、直近ではインバウンド全体の増加がみられる。中国からの個人旅行者が復調したほか、欧米やアジアからのインバウンドが増えた。また、国内客においても、株価上昇の影響により、富裕層を中心に貴金属や時計といった資産価値の高い商品への購買意欲が高まっている。
	○	スーパー（店員）	単価の動き	・野菜の価格がかなり下がったため、よく売れており、いちごの収穫も最盛期でよく売れている。
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・中東情勢の影響で、石油関連商品の値上げや入荷制限などがみられるほか、客の間でもまとめ買いの意識が高まり、食品用ラップやゴミ袋といった消耗品の販売が一気に増えている。結果として、日用雑貨部門の売上は前年を上回っている。

○	乗用車販売店 (マネージャー)	販売量の動き	・大きな上振れはないが、前年に比べて少しずつ来客数が増え、販売実績にも影響が出ている。
○	その他小売 [インターネット通販] (オペレーター)	販売量の動き	・送料無料キャンペーンを行っている影響で、受注量がかなり増えている。
○	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・非常に苦しかった3か月前と比べると、売上は40%増えているが、前月の増加率からは5ポイント縮小している。3月から続いている企業の中規模の宴会が、売上を維持している主な材料とみられる。一方、個人客の利用は、物価上昇による節約志向で昼夜共に減少している。
○	通信会社 (社員)	販売量の動き	・インターネットの高速サービスへの乗換え需要が増えている。
○	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・2～4月は引っ越しなどの環境変化の時期であり、新生活関連の需要が高まるなど、売上は3か月前と比べて120%になっている。
○	その他レジャー [スポーツ施設] (経理担当)	お客様の様子	・株価の継続的な上昇による影響がみられる。
○	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・春の転居シーズンということもあるが、成約率が上がっている。
○	その他住宅 [住宅設備] (営業担当)	販売量の動き	・春の賃上げが高水準となっており、社員のモチベーション向上が期待できる。
□	一般小売店 [野菜] (店長)	お客様の様子	・価格を気にして、安い商品を探して動いている客が多く、非常にシビアな状況である。
□	百貨店 (商品担当)	お客様の様子	・直近はインバウンド売上が回復傾向であり、中国以外の東南アジアからのインバウンドの動きが好調である。物産展などの催事も好調で、大阪・関西万博の1周年企画等も好調となるなど、販売促進策による来客数の増加がみられる。ただし、婦人服や紳士服などは客の動きが鈍く、継続的な回復には至っていない。
□	百貨店 (売場マネージャー)	来客数の動き	・物価上昇や中東情勢の影響など、個人消費に打撃となる要素が多いものの、景気の大きな下向き傾向はみられない。インバウンド売上については、前年が円高基調となった反動のほか、中国人客の減少も他国客の増加により補うことができている。
□	百貨店 (販売推進担当)	来客数の動き	・春の改装期を迎え、新規オープンしたショップは非常に好調な立ち上がりとなったが、特選輸入ブランドや時計などの高級品が苦戦し、店全体ではほぼ前年並みの動きにとどまっている。
□	百貨店 (外商担当)	来客数の動き	・近隣の商業施設を含むエリア全体では、平日、週末にかかわらず、来客数が安定的に多い。
□	百貨店 (販促担当)	来客数の動き	・今月も安定した気候の下、全体的に穏やかな推移となっている。ファッション、食品共に大きな変化はなく、来客数、客単価共に前年並みの動きとなっている。今月は催事による集客が良く、店舗の来客数の増加に寄与している。
□	百貨店 (マネージャー)	お客様の様子	・大きな流れは変わらず、投資目的の動きもあり、富裕層による美術品や宝飾、特選品の購買がみられる。また、集客のための仕掛けも功を奏し、好調である。インバウンドは、来客数は減少したものの、単価の倍増などで好調を維持している。一方、国内中間層はゴールデンウィークを控え、客単価や購入量の悪化が目立つ。食品、ファッション共に、コストパフォーマンス重視のシビアな購買姿勢がみられるなど、選択消費の動きが続いている。
□	百貨店 (営業推進担当)	単価の動き	・食料品の売上は比較的堅調に推移しているが、衣料品関連では苦戦が続いている。
□	スーパー (企画担当)	来客数の動き	・来客数に変化はなく、横ばいである。

<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・各自治体による商品券などの配布が相次いでいる。消費税率の軽減時期が見通せないなか、消費者は積極的に利用しており、売上の増加につながっている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・コストプッシュ型の価格上昇の継続で、客の財布のひもが固くなっている。来客数を維持できても、客単価の低下によって、売上の減少につながっている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	単価の動き	・来客数は微減であるが、値上げが続いている影響で、客単価はやや上昇している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・17時～22時にかけての来客数が減少している。周囲の飲食店の来客数も増えていないが、これには商店街全体の店舗減少も影響している。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	販売量の動き	・桜の時期は大量に購入する客が多かったが、その後は落ち着いている。常連の客が多く、普段どおりの買物をしている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	販売量の動き	・相次ぐ値上げが影響しているのか、店内調理のサンドウィッチや弁当の廃棄が目立っている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店員）	お客様の様子	・来客数や売上に余り変化はみられない。インバウンドも減ることはなく、客の比率としては国内客よりもインバウンドの方が多い。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて、営業売上、来客数共に、ほぼ横ばいの状況となっている。本来であれば、4月頃から気温の上昇とともに売上が増加してくるが、中東情勢の影響で石油関連の価格上昇が懸念材料として残っている。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	お客様の様子	・社会情勢の変化が、客の動きの変化に直結している。中東情勢の影響による先行き不安もあり、購買意欲は低下傾向にある。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・物価や金利の上昇で、高額商品の購入の検討期間が長引くケースが増えている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新車の動きが良くなく、今月は売上目標が未達の予定である。自動車税の環境性能割が廃止になり、今月は販売台数の増加が期待されたものの、厳しい結果となった。新車の不調については、新型車種が発売前であるほか、車両単価の高騰が要因とみられる。一方、中古車の販売やサービス部門は目標達成の見込みである。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・中東情勢の変化による、様々な物の価格の高騰が少なからず影響している。客との会話でも、前向きな姿勢が少ない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（営業企画）	単価の動き	・業況は輸出の動き次第となっている。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・開業医や会社経営者など、資産に余裕がありそうな客が高い商品を買わなくなり、店内の特価品などで済ませるケースが増えている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店【食品】（経営者）	販売量の動き	・販売数量には大きな変化がない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店【ドラッグストア】（店員）	お客様の様子	・原油の供給不安でまとめ買いの動きがみられ、通常よりも物販の売上が増えている。紙類の購入も増え、商品の欠品が続いているほか、単価の上昇もまだ続いている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店【宝飾品】（販売担当）	お客様の様子	・地金の相場が3月の最高値よりも少し下がっている。再び上がるという期待から、消費者の購買意欲には変化がみられたが販売側からすれば好機というほどではない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店【医薬品】（管理担当）	販売量の動き	・気温の上昇に伴い、UV関連や制汗剤、殺虫剤などの夏物商材のほか、制度化化粧品、カウンセリング化粧品、化粧雑貨などの売上も大きく上向いた。一方、食品や日配品などの生活必需品は横ばいであり、花粉症関連の医薬品や健康食品、衛生用品などは減少となった。3か月前と比較し、来客数や買上点数に変化はないものの、客単価や1品単価は上昇している。

□	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	販売量の動き	・中東情勢の変化が、一気に不安要素となりそうである。
□	観光型ホテル（経営者）	販売量の動き	・前年は4月中旬～10月中旬まで大阪・関西万博に関連する団体客が多かったが、今年はその特需がないため、販売量の減少が懸念される。ただし、今月に関しては、従来の団体客の利用があり、何とか前年並みの販売量を確保できている。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・4月は歓迎会の時期であり、タクシーの利用率は少し上昇したが、物価の上昇による節約志向は強く、先行きの不安を取り除かなければ景気は上向かない。
□	競艇場（職員）	単価の動き	・前月よりも売上の増加率は縮小しているが、ネット投票の売上が拡大し、前年比で5%前後の伸びとなっている。一方、客単価は大きく変わっていないほか、各拠点のレース場や場外発売場の売上は、前年よりも減少する見込みである。
□	その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	来客数の動き	・季節による繁閑差の影響が大きいため、3か月前と比較して、来客数が悪いとも良いともいえない。前年と比較すると増加傾向となっている。
□	美容室（店長）	来客数の動き	・今月は化粧品が多く売れたが、その分仕入れを増やしたため、利益は増えていない。
□	住宅販売会社（企画担当）	販売量の動き	・物価上昇による建築費の上昇のほか、地価の上昇も加わって、厳しい状況が続いている。
▲	商店街（経営者）	お客様の様子	・物価の上昇が続いている。
▲	一般小売店〔雑貨〕（店長）	単価の動き	・値上がり品目が多い。
▲	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	来客数の動き	・前年の大阪・関西万博の開催による反動減もあるものの、来客数の落ち込みが目立ち始めている。
▲	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・物流コストや人件費の高騰による物価上昇で、買い控えが発生している。
▲	百貨店（外商担当）	販売量の動き	・中東情勢の変化による石油製品の供給不安などで、購買意欲が減退している。株価の乱高下といった不安定な状況から、高級品の動きも鈍くなっている。
▲	百貨店（マネージャー）	来客数の動き	・1月の来客数は前年比で6.0%増であったのに対し、今月は2.0%前後の増加となっている。日配品や洋菓子など、食品関連は引き続き好調に推移しているが、衣料品や雑貨関連は前年割れとなるなど、物価上昇への懸念による節約傾向がみられる。
▲	スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の購入がディスカウント商品に集中している。
▲	スーパー（店長）	単価の動き	・来客数が増加している一方、売上はそれほど伸びていない。商品の値上げが続くなか、客単価は伸びず、最近増えた競合店を買い回りする傾向が見受けられる。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上が減少している。ガソリン価格の高騰など、生活に直結する部分での支出が増え、生活防衛姿勢が強まっている。
▲	スーパー（社員）	お客様の様子	・長引く値上げの影響で、徐々に客の買い控えが進んでいる。生活必需品の売行きは変わらないものの、こだわりの商品などの動きは鈍い。
▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・最近、中近東や欧米からの来訪が増加する一方、東南アジアからの来訪は減少しており、全体の購入量の減少がみられる。常連客も財布のひもが固くなっている。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前でもあり、客が節約している影響で、飲食店も平日は暇な店が多い。
▲	家電量販店（営業担当）	それ以外	・建築関係にナフサ不足の影響が出始めている。

▲	住関連専門店 (店員)	お客様の様子	・物価の上昇で生活費が圧迫されているため、家具などは使える物を使い、買換えを控える客が増えている。
▲	その他小売 [ネット通販] (管理担当)	単価の動き	・値上げの依頼が増えている一方、買上数は落ち込んでいる。
▲	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク前の閑散期ではあるものの、例年以上に来客数が少ない。
▲	一般レストラン (企画)	販売量の動き	・前月、前々月と比較すると販売量は徐々に上向いているが、3か月前と比較すると減少している。一方、既存店売上の前年比は105%を超えている。
▲	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・週末の利用者数やゴールデンウィークの予約状況、3か月前までの予約状況などが、前年比で良くない。
▲	観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・中東情勢の変化で石油関連価格が全て値上がりしており、旅行気分にならない。
▲	都市型ホテル (客室担当)	来客数の動き	・中東情勢の変化や、中国からのインバウンドの減少による影響が出ている。
▲	都市型ホテル (フロント)	単価の動き	・燃料価格の高騰で、燃油サーチャージが引き上げられたため、ホテル料金の値下げ交渉に波及している。インバウンドの団体客が減少しているほか、国内の個人客の動きも鈍化している。
▲	都市型ホテル (客室担当)	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは最大で12連休となり、稼働率が上がりにくい。中東情勢も一向に解決の糸口がみえず、中国からのインバウンドも個人客は少しみられるが、相変わらず少ない。
▲	都市型ホテル (客室担当)	単価の動き	・大阪・関西万博の閉幕以降は販売単価が下がっているほか、経費の高騰と重なり、利益が減少している。近隣施設も同様に販売価格が下がっており、苦しい状況である。
▲	都市型ホテル (営業担当)	販売量の動き	・今月に入ってから、予約の取り込みなどの伸びが鈍化している。
▲	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・燃油サーチャージの上昇により、客が海外旅行を避ける傾向にある。
▲	旅行代理店(役員)	販売量の動き	・原油価格の高騰による影響が各分野に及んでおり、生活用品の値上げに伴う景気への悪影響が懸念される。
▲	通信会社[貴金属オークション] (経営者)	お客様の様子	・中東情勢の変化には終息の気配がなく、客の購買力が少し低下しているため、取扱商品の売行きが鈍化している。
▲	通信会社(経営者)	お客様の様子	・原材料費の大幅な上昇のほか、中東情勢の変化による材料不足の影響が出ている。
▲	通信会社(社員)	販売量の動き	・最需要期が過ぎ、動きが落ち着いている。
▲	通信会社(役員)	販売量の動き	・来客数、販売量共に、前年を割り込んでいる。物価上昇に伴う買い控えの影響を強く受けており、特に高額なスマートフォンの苦戦が目立つ。
▲	遊園地(経営者)	来客数の動き	・4月の賃上げなどの効果を見込んでいたが、中東情勢の変化による物価上昇の加速への懸念で、客足が伸びない。
▲	競輪場(職員)	単価の動き	・3か月前の客単価は8657円であったが、今月の客単価は8494円に低下している。
▲	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・住宅設備関係で値上げが進んでいるほか、納期遅延の動きも増えている。
▲	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・材料価格の高騰による、消費マインドの低下が懸念される。
▲	住宅販売会社 (従業員)	競争相手の様子	・資材価格の高騰により、リフォームや土地開発などの工事が膨らみ、業績に影響が出始めている。
▲	その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介] (経営者)	それ以外	・中東情勢の変化により物価が上昇し、消費の減少につながっている。
▲	その他住宅[展示場] (従業員)	販売量の動き	・運営する住宅展示場での成約数は、建築単価や住宅ローン金利の上昇傾向を受け、3か月前と比較して減少傾向にある。

	▲	その他住宅〔情報誌〕(編集者)	お客様の様子	・中東情勢の先行き不透明な状況により、建築関連コストの増加が避けられないため、不動産価格の高騰が予想される。現状の価格も実需層にとってはかなり高止まりした状況であるため、市場では不安の声も大きい。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕(店長)	単価の動き	・客に購入意欲はみられるが、単価を気にする様子があるなど、不安要素が払拭されていない。
	×	一般小売店〔呉服〕(店員)	お客様の様子	・中東情勢の影響で石油の輸入が止まり、全ての物が値上がりしていることで、客の買い控えが発生している。
	×	百貨店(管理担当)	それ以外	・売場の大幅な見直しによる影響で、売上は減少している。ただし、目標は大きく上回っており、景況としては堅調に推移している。
	×	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・前年と比べて、来客数が2～3割減少している。
	×	衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・ショーウィンドウをみる客は少なくないが、実売にはつながっていない。
	×	家電量販店(店員)	それ以外	・商品の入荷が遅延し始めてから、商談に陰りがみられる。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経理担当)	それ以外	・石油関連ではガソリンの安定供給が続いているが、重油や灯油等は品薄状態が続いており、十分な供給が難しい。石油製品の仕入制限と、値上げによる経費の増加で、先行きの見通しが全く立たない。また、店舗の改装も材料不足のため延期となっている。
	×	その他飲食〔洋菓子〕(管理担当)	来客数の動き	・3か月前よりも売上は減少している。周辺の工事などの外的要因で通行量が減少している影響のほか、前年4月は好景気であったため、その反動による悪化が大きくなっている。
	×	旅行代理店(支店長)	お客様の様子	・中東情勢の影響により、客の財布のひもが固くなっている。生活必需品以外への支出を抑えて貯蓄に回す動きが顕著で、旅行や余暇への関心が薄れている。
企業動向関連(近畿)	◎	—	—	—
	○	プラスチック製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・景気自体は余り良くないが、販売量と受注量は増えている。当社はプラスチック板の印刷や加工を行っているが、部品がなくなれば生産できなくなるため、駆け込みでの発注が増えている。かなり先の納期の受注が通常よりも増えており、生産資材の確保には難航しているが、生産は止まらずに動いている。
	○	電気機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・前年に続き、受注は堅調であるが、自動車業界には回復の動きがみられない。
	○	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・4月は取扱製品の需要期に当たるため、出荷量が増加している。ただし、例年と比べると勢いはない。
	□	繊維工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・商品の値上げの動きが強く、買い控えが行われるなか、値引きでの販売が常態化しているため、利益の確保が厳しい。
	□	金属製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新年度に入って、断続的に新規の見積りが出ており、4～6月期の好調への期待が高まったが、大きな変化はない。
	□	一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は大口注文がない一方、小口案件は通常の動きとなっている。やや低迷気味ではあるものの、ここ数か月の景気に変化はない。
	□	一般機械器具製造業(設計担当)	それ以外	・物価は上昇しているが、販売量が急激に減る動きはみられない。
	□	輸送用機械器具製造業(役員)	取引先の様子	・受注済の案件では、原価の上昇に伴う価格転嫁ができないほか、未受注分でも価格の引上げ交渉が困難である。
	□	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注や問合せの動きが継続している。ただし、中東の海峡封鎖の影響で、ポリ塩化ビニールやプラスチックといった材料が3割以上も値上がりしている。

□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・建築資材の値上げや商品不足で、工事現場への納入が延期となる事例が数件みられる。ただし、値上げ前のまとめ買いで、倉庫への電気設備機器の納品が一定以上に進んでいるため、今後の仕事量に大きな変化はない。
□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・家電は売れているが、家具が売れていない。
□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中東の海峡封鎖による原油価格の高騰で、ナフサ関連の商品の仕入れが難しくなっており、徐々に影響が出てくる。
□	金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・景気浮揚の兆しが少し出始めたところで、今度は原油不足が原因の物価上昇が進んでいる。
□	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	取引先の様子	・材料や部品の輸入が非常に多いため、値上げが必要となり、その通知をするだけでも大変である。値上げが落ち着くまでは忙しくなる一方、増収にはつながらない。
▲	食料品製造業（従業員）	取引先の様子	・中東情勢の影響でナフサの供給がひっ迫しており、今月から当社でも資材の入手が困難になっている。これからますます困難になることは確実で、商品の製造ができなくなる。
▲	食料品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・前年は4月から大阪・関西万博の開催効果が出始めていたため、その反動が出ている。
▲	食料品製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・原価の増加で取引価格を上げたこともあり、売価は上がったものの、売上は少し悪くなっている。
▲	繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・中東情勢の問題で、重油の供給が不足している。その結果、加工工程に遅れが出ており、商品を作れない状況になってきている。
▲	繊維工業（管理担当）	それ以外	・中東情勢の変化により、材料価格の高騰や資材の仕入れに対する不安が高まっている。
▲	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・物価高の影響が徐々に始めているため、利益率が低下している。
▲	化学工業（製造担当）	受注量や販売量の動き	・研究用試薬の受注量が減少しており、在庫も余っている。
▲	化学工業（管理担当）	それ以外	・中東の海峡封鎖による、価格の上昇や原料不足などの影響が出ている。
▲	窯業・土石製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・中東情勢がこう着状態であり、石油関連製品の価格が上昇する懸念が高まっている。物価上昇や円安基調が続いているなど不安要素も多く、取引先からの受注量を考慮すると、やや悪くなっている。
▲	その他製造業〔履物〕（団体職員）	受注量や販売量の動き	・原材料価格の高騰に加え、一部の部品で供給がストップし始めている。
▲	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先のみえない物価上昇の影響で、住宅への投資意欲が低下している。
▲	輸送業（サービス担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年比で95%となっている。原油価格が高騰しているほか、品不足でもあり、流通量が減少傾向となっている。
▲	金融業〔保険〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・近隣も含めて、来客数は減少傾向にある。景気の先行き不透明感や物価の上昇のほか、ゴールドンウィークを控えた買い控えなどが影響している。
▲	不動産業（営業担当）	取引先の様子	・インターネットでの販売が増えて、実店舗が減少するなか、店舗の閉店が続いている。それに伴って空室率が上昇して、賃料が下がるなど、景気が悪くなっている。
▲	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・交通広告全般で、4月の動きが前年よりも悪い。
▲	その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	取引先の様子	・中東情勢の影響による原油不足により、運送コストが1～2割上昇しており、収益を圧迫している。また、売上も前年比で5%以上の減少が3か月続くなど、厳しい状況となっている。

	▲	その他非製造業 〔衣服卸〕（経営者）	取引先の様子	・販売状況には前月から変化がない。財布のひもが固く、日用品の店頭での売行きは前年を下回っているが、WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）関連グッズやキャラクターの期間限定ショップなどは非常に好調な売行きとなっている。一方、直近では中東情勢の混乱の長期化で資材の買占めや入荷の遅延などがみられ、今後の仕入価格も読めなくなっている。円安の進行で、多くの会社では仕入価格の上昇が見込まれているなど、先行きは厳しい状況が予想される。
	×	パルプ・紙・紙加工品製造業 （経営者）	受注量や販売量の動き	・ナフサが需要に対して不足しているため、来月からは生産がかなり減少する。
	×	その他非製造業 〔電気業〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・物価の上昇が止まらない。
雇用 関連 (近畿)	◎	—	—	—
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	周辺企業の様子	・2028年卒業者向けのインターンシップ等の広報が活発化している。当社では、5月のインターンシップ向け合同企業説明会の出展申込みが好調で、大手企業がグループ全体で出展するケースもある。4月も他社のイベントでは参加者数が好調だったと聞いている。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	求人数の動き	・常に人手不足であり、給料も増加傾向にあるなか、年間で最も需要が高まる時期となっている。
	□	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・中東情勢が不透明な状況のなか、求人の動きには変化がない。
	□	人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・例年と比べて、動きがかなり鈍い。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人市場の動向として、事務職の募集は減少傾向にあるが、建設・医療業界の求人は堅調に推移している。一方、事務職の給与面では時給の停滞が続いており、求職者のニーズと市場の求人条件にミスマッチが生じていることが大きな課題といえる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・求人数が減少するなか、60代以上の求職者による応募は増えているものの、40代以下の応募数が減少している。
	□	人材派遣会社（管理担当）	求人数の動き	・新入社員の入社により、人員が充足傾向にあることから、求人数は伸び悩んでいる。
	□	アウトソーシング企業（社員）	採用者数の動き	・新年度に入ったが、当部署には特に人の動きもなく、新入社員もいない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告やデジタル広告の推移に、特に大きな変化はみられない。
	□	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・雇用保険の受給手続に来所する求職者数は、例年と余り変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が増えていないほか、中東情勢の影響で材料の仕入れや受注に不安を抱えている企業が散見される。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・国際情勢の変化や物価上昇による影響はみられるものの、求人数は前年と同水準となっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・4月の求人数は前年よりも少ないが、景気への大きな変化は今のところみられない。ただし、中東情勢の変化による影響への不安の声が高まっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・求人動向に変化の兆しはあるものの、景気自体に影響するまでには至っていない。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	求人数の動き	・新規求人では、卸売、小売業や宿泊・飲食サービス業の減少幅が大きい。これには前年の大阪・関西万博の開催による反動減も大きい。一方、これまで減少傾向にあった建設業や製造業で下げ止まりの兆しがみられる。建設業では公共事業関連が好調で、製造業では半導体関連が好調との声がある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	それ以外	・物価の上昇や円安傾向が止まらず、少しずつ景気は悪くなっている。
	▲	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・年度初めで公共工事の案件がまだ動いていない。

▲	学校 [大学] (就職担当)	それ以外	・ 4月から値上げが続いており、買い控えの進行などで景気が悪くなっている。
▲	学校 [大学] (就職担当)	採用者数の動き	・ 医療福祉関連施設の一部では、コストの上昇などによる業績悪化がみられ、求人を下方修正する動きが出始めている。直近2～3年の公的医療機関による順調な求人動向にも、業績悪化懸念による変化の兆しがみられる。民間の医療機関の求人数はこれから示されるが、世界情勢が混とんとするなかで新年度を迎え、変化が出てくる可能性がある。
×	*	*	*